

令和2年度第2回長浜市総合教育会議要点録

I 日 時 令和2年10月2日（金曜日）13時30分～15時00分

II 場 所 長浜市役所 本庁舎3階 特別会議室

III 出席者

【構 成 員】 藤井勇治市長、板山英信教育長、
西橋義仁教育委員、廣田光前教育委員、美濃部俊裕教育委員、
宮本麻里教育委員、中村亜紀教育委員

【事 務 局】 酒井教育部長、鵜飼教育委員会事務局次長、
清水教育委員会事務局次長、伊藤教育指導課長、
成田教育指導課長代理、武石教育改革推進室長、今井教育総務課長代理、
且本総合政策部長、横尾総合政策部次長、柴田総合政策課長代理
他、担当職員（2名）

【議事進行】 且本総合政策部長

【傍 聴 者】 無し

【報道機関】 無し

IV 内 容

1 開 会

2 市長挨拶

（要旨）

- ・第2回長浜市総合教育会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。教育委員の皆様におかれましては、日ごろから、子どもたちの教育の充実と発展、そして健全育成のために、大変なご尽力を賜っておりますこと、心から感謝申し上げます。
- ・新型コロナによる影響が学校にも及んでいますが、最近では各学校で去年とはスタイルを少し変えるなどそれぞれ工夫し、運動会を開催していただきました。今までですと運動会は開催して当然でしたが、今年はコロナの影響で場合によっては開催できないのではと心配をしていました。
- ・私も何校か訪問させていただきました。印象的だったのは木之本中学校の生徒会長さんが、様々な工夫をしたおかげで運動会を開催できたことが本当によかったと、感謝の気持ちを挨拶で述べられていたことでした。子どもたちの元気な顔を見ると、かえって大人の方が励まされました。

- ・工夫をしていただいた校長先生や先生方の大変な努力を市長としても評価したいと思いますし、支えていただいた保護者の皆様にも感謝申しあげたいと思います。また、子どもたちには引き続いて、しっかりコロナを乗り越えようというエールを送りたいと思っております。
- ・さて、先週の日曜日には、長浜市出身の医学博士で、昨年度に文化勲章を受章された坂口先生の講演会があり、地元の中高生をはじめ、たくさんの方々に参加いただきました。坂口先生のわかりやすいお話を聞くことができ、子どもたちにとっては夢や希望を抱く、良い機会になったのではないのでしょうか。
- ・次代を担う子どもたちが、それぞれの個性や能力を伸ばすことができるよう、総合教育会議において教育課題やめざすべき姿を共有していきたいと考えています。本日の会議では協議と意見交換を行います。
- ・まず、協議事項の長浜市教育大綱では、本市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱として、その目標や施策の根本となる方針を策定します。今回、事務局から説明します最終案を基に、12月の議会へ上程する予定です。ご質問やご意見などいただけましたら幸いです。
- ・次に、意見交換のテーマは、「新型コロナウイルス感染症とともにある生活の中で、これからの学校教育のあり方について」でございます。学校は再開されましたが、新型コロナウイルス感染症は、学校での活動、普段の授業、運動会など、多くのシーンにおいて子どもたちの生活に影響しています。
- ・学校現場において、従来どおりのやり方では、実施できないことも多くありますので、別の方法で行う際には、学校や保護者、地域の方の苦勞を伴いますが、新型コロナをきっかけに、子どもたちの学校教育において、大切なことは何か、本質は何かについて、考える機会になっています。
- ・新しい生活様式に沿って、コロナと共にある生活に少しずつ慣れてきた中で、長期的な視点に立ち、これからの子どもたちの学校教育はどうあるべきかについて、ご意見・ご議論を賜りたいと思います。
- ・教育委員のみなさまと行政が今後の長浜市の教育のあり方について活発な意見交換を行い、子どもたちを育む環境について、より良い方向性を見出すことができることを心から期待してご挨拶とさせていただきます。本日は、よろしく願いいたします。

3 議事

(1) 協議事項

① 長浜市教育大綱（最終案）について

事務局は配布資料に基づき、長浜市教育大綱（最終案）について説明を行った。その後、各構成員から意見は出なかった。

4 意見交換

テーマ：「新型コロナウイルス感染症と共にある生活の中で、これからの学校教育のあり方について」

(1) 行政説明

学校での活動などから見えてきたことについて資料に基づき事務局（教育指導課）から説明。

(2) 意見交換

〈意見：教育委員〉

この 9 か月間に新型コロナウイルスが子どもたちの学校生活にどのような影響を与えたのか。また、子どもの心にどのような変化をもたらしたのか。私自身、自分の目で見ておりませんので的確なことが言えないというのが現実であろうかと思えます。

ちょっと的外れなことを言い出すかもしれませんが、どこでも使われる言葉に不易と流行という言葉があります。学校教育で一番大事なことは何か。究極、私は人格の陶冶であろうと思えます。最終的にこの人格の陶冶、これを置き去りにしたがために、流行に走ってしまい、様々な人間が育っていくだろうということを心配しております。

それぞれの学校において、学校教育では何が一番大事か、不易とは何かということについて、今一度、先生方が意見を交換し合うということも大事なことで思っておりますし、教育委員会としても、不易の部分とは何か、示せるような体制を整えることが大事だと思っております。また、流行の中から新しいものが生まれますし、逆に流行に乗らずに生活していると、とんでもないことになってしまうということはもう目に見えていると思えます。

最近では文部科学省が GIGA スクール構想を打ち出し、全国の学校で学校教育のスタンダードとして推進していくという大きな方針が示されました。これも流行と言えば流行ですね。

この GIGA スクール構想は、長浜でも ICT 教育の充実ということで様々な手を打っていただいておりますし、学校が休校になった場合、各個人が家庭において、遠隔での指導を受けることができるように、この前の議会で承認されました。

ところがこれもなかなか難しい問題で、学校の先生と子どもたちだけが ICT 教育のスキルをマスターしたとしても、それは片手落ちであり、親と教師の両方で、特に「親」

が大事だと思いますが、この ICT 教育の技術を扱えるようにならないと、子どもたちに教えることができない。これが ICT 教育の特徴であると言われていました。

コロナが収束した後に、教育委員会として ICT 教育の拡充と充実をさせていくためには、今後は親を交えてスキルをマスターしていくことが大事なのではないか。また、ポストコロナがいつ頃から始まるのかわかりませんが、今から注目して、教育委員会または学校が準備をしていくということが非常に大事なことではないかと思っています。

〈意見：教育委員〉

私も子どもたちの様子を直接見ていませんし、学校の先生が子どもの変化を一番感じておられると思います。

今回のコロナ禍では、国あるいは市による、ある程度均一で非常に整った行政サービスなどが行き届いたピークだったと思います。先ほどの教育大綱の資料の中にも出ていました、多様性や多様化についてこれから差が出てくるのではと考えています。

実際に、(コロナ禍で) お店が閉じてしまうことや、今年は失業者が増えたというニュースを目にしますが、今まで当たり前に見ていたことが多様化していくのではないのでしょうか。

これまで教育や生活の様々な場面で普通と考えていたことが崩れてきますので、これからは多様性や多様化というものを受け入れていく必要があるのではと考えています。これからの時代に「人権教育」や「人格」といったところにもう一度光が当たってくれないかと思っています。

生活をしていく上で情報をいっぱい受けますが、子どもたちがこういうことは大事だなと感じ取れるような教育を求められているのではないかと思います。

滋賀県では「読み解く力」という言葉がありました。もちろん文章とか様々な資料を読み取るという意味もありますが、一方では相手の心、気持ちを理解していく力がこれからさらに大事になると思います。

私が退職するときから感じていたのは、いわゆる特別活動の時間がどんどん減ってきていたということです。討論する時間が減ってきて、もう 10 年か 15 年くらい経っているのではないのでしょうか。私も仕事の上で大学生と接しているのですが、周りの方と喋っていると今の青年は非常に賢く、真面目で理解力があるけれど、さて自分で考えてみようとか、あるいは話し合いをするとピタッと止まってしまう、工夫する力や困難を乗り越える力がちょっと弱いのではないかと感じますし、それは特別活動の時間が減ってきていることに(原因が)あるのではないかと私は思います。

制度の上で時間が自由にあるわけではないのですが、できるだけ様々なところに読み解く力と言われているような力を見つけるよう、何かしら工夫しながらやっていくということが、先ほど仰った「人格」というものに繋がるのではと考えています。

新型コロナの影響で今までのように修学旅行に行けないので、どうしようかという話の中で、近いところにある地域の文化を見に行ったらどうかという案を聞いたときに、本当だなと私は思いました。

タブレットも使わず、ネットで調べることもありませんが、せっかくこの長浜の地域に住んでいますので、身近なところの文化や歴史、人と人の繋がりをぜひ活用していただいて、長浜の財産を自分の眼で見る。そういった機会を学校の方で子どもたちに与えていただけると豊かな心を持った子どもたちが育つのではと思います。

〈回答：事務局〉

今ほどご指摘いただきました特別活動は学校でやっておりますし、非常に大事だと思います。学校では、学力をつける教科学習と、社会性や道徳性、集団を兼ねての特別活動の両輪があって初めて子どもが育っていくと考えております。

実際に目の前の子どもたちが将来、社会に出た時にどういう力が発揮できて、どのように対応できるだろうかということも見据えながら、今後も各学校にそういう意識を持って取り組むような形で参考にさせていただきます。ありがとうございます。

〈意見：教育委員〉

世の中は新型コロナのせいでみんな本当に鬱になっています。小企業はもちろん、大企業も大変な時期で、テレビでニュースを見ていると暗いイメージですが、もう一度、社会が明るくなって欲しいです。

少し余談ですが、私は今、自分の家の側で毎日、銀河を撮っています。別に山奥とか暗いところに行かなくても、虎姫では銀河や星座を撮ることができます。この地域の自然を生かして銀河を撮っていると、心が安らいで楽しいです。

そこで提案なのですが、資料の3ページの教育大綱の最終案、基本目標4の説明文下段のところで「遺産や伝統を守り」の前に「自然」という言葉を入れたいかなと思います。長浜には、天文、地理、生き物をはじめ、様々な自然がたくさんありますから、これらの自然を利用してもうちょっと世の中を明るくして欲しいです。

最近、自殺のことも報道されています。自殺は「伝染病」で、1人自殺したら周りの人が続いていくことがあり、人間だけの心の問題と言われています。

これからの21世紀は「心」の世紀だと思っています。ぜひ、教育委員会から明るく生きていけるような環境を作って欲しいという提案をさせていただきます。

〈意見：教育委員〉

私も子どもたちと接することはあまりないのですが、職場で若いお母さんたちがお話ししているのを聞いたり、会話の中に入るようにしています。今の子どもたちはインターネットネイティブ、またはITネイティブというのでしょうか。生まれた時からタブレットなどがありますので、体で覚えるそうです。先日聞きましたのは、2歳ぐらいのお子さんが絵本を見ていて指でスワイプして拡大しようとしたのを見てびっくりしたとあるお母さんは話していました。また、子どもが親のスマートフォンを共有して使うことができるような環境にいと、小数点の掛け算をスマートフォンに口で言って計算をさせるそうです。

今の子どもたちは親が知るよりも先に、スマートフォンやタブレットで様々なことができてしまっておそらくタブレットを渡してしまっても勉強しなさいと言えば勉強すると思いますが、検索してすぐに答えを出してしまうようです。今、小学校では辞書を買って使うように言われていますが、検索した方が早いということ子どもたちがすでに知っています。

実際問題、私も大人になってからはわざわざ手で書いて計算するよりも計算機を使ってしまいますので、そういうものを使ってはいけないとは言いませんが、一応計算をして知っているのと、いきなり機器などで計算しているのはやはり違う気がします。

もしかしたら無駄で時間がかかるかもしれないけれど、コツコツやらないと、答えにたどり着かないことがあるってことは大事だと思います。コツコツやらないといけないことが世の中にはあるということをお教えるためには、やはりそういう勉強も必要かなと思います。

私はこの教育大綱の中では、やはり基本目標2の「生きる力」が一番大事な気がします。日々の暮らしの中で生きていくためには働いてお金を稼いでいかなければなりません。コツコツやって生きていかずして、華のような暮らしはなかなかないということ子どもたちには知っていて欲しいですし、わかって欲しいです。

この前の坂口先生のような立派な人の話を聞くと、コツコツやっていった先に、とても立派な人もいるという夢を持つこともあると思います。

これからの子どもたちはインターネットやパソコンなど、便利な機器を使いこなせないとおそらく仕事にならないと思いますが、やはり紙と鉛筆でする仕事も大事だということをごどこかで分かって欲しいです。

どう説明したらいいのかわからないのですが、本当に地味にコツコツやっていくということが一番大事に生きて行って欲しいなと私は思います。

〈意見：教育委員〉

私は実際に子どもたちや保護者の方と接する機会が多いのですが、文化祭や運動会など、形は以前とは違いますが、目標や楽しみが今ちゃんとあるので、ここ一、二か月ぐらいで子どもたちとお母さんたちの笑顔の量が全然違います。もちろん不安もありますが、少しコロナが落ち着いてきたこともあり、ちょっと外に出て何か楽しんでいるという印象を受けます。学校が始まったときはやはりたくさん勉強することが必要で、行事なども少なかったのも、保護者も含めてちょっとしんどそうな子どもはかなりいました。

しかし、体育祭や文化祭など、一つ楽しみや目的があるだけで、同じように勉強し、体育祭などの練習をして疲れているはずなのに、体全体に活気というか、力がついてきているので、相乗効果で勉強も頑張るし、楽しいことも出来るという、とても良いリズムを感じます。

子どもたちは将来の行事など、目標を持って子どもたちなりに生きているので、行事の形は変わったとしても、出来る限りのことは実施できたらいいなと思います。

先ほど説明していただいたように、資料の6ページの1-(5)の「変わるもの、変わら

ないもの」というところですが、子どもたちの自分の体とか健康に対する意識は大きく変わったと思います。自分で熱を測ることや、体調を確認することが自然とできるようになりました。毎朝、自分の体と向き合う時間があるということは、意外に大切なことだと感じます。

また、同じ資料の隣にある、この「3つの“感染症”はつながっている」というところですが、学校が再開した後、滋賀県が幼稚園児から大学生までを対象に実施したアンケートでは小学校の高学年や中学校くらいになってくると、自由記述のところとかに「とにかくコロナ怖い」とか「よくわからんけど不安」と外に出るのが怖かったと書いている方が多かったのが印象的でした。

それは先ほどお話があったように、とにかく情報がありすぎて、テレビやSNSなどで感染者の数がどんどん増えているところだけを見たことが影響しているのかもしれない。

もちろん怖いものは怖いのですし、安心するまではいかないかもしれませんが、たくさん情報の中から正しい情報を自分で選んで考えていく方法を教えてあげたいと思っています。いきなりは難しいので、学校や家庭などで、どのように情報と付き合っていくのかということ学べるようにしていかなければなりません。

あと、ICTやインターネットのところですが、一つの手段として子どもたちがこれから生きていく上で大切なものですし、使っていくことでプレゼン力が上がることもあると思います。

でも、さきほどもお話があったように（機器を使って）すぐ調べてしまうだろうし、親も子どもに質問されて、「これって何？」って聞かれたときにうっかり調べます。上手に答えられないところもありますが、使うことによって正しく、しっかりしたことを教えられますので、一つの手段として使っていけるといいなと思っています。

そのためには、子どもたちが「なぜ学ぶのか」ということや「なぜ働くのか」というところをしっかりと伝えられて、それを子どもたち自身が考えられる場があれば、コツコツと生きようと考えるだろうし、ずるいことをしても自分のためにならないと感じるようになると思います。

学校や保護者が連携しながら子どもたちにICT教育を伝えていけると、相乗効果で子どもたちも育っていくのではと思いました。

〈意見：市長〉

委員の皆さまの意見に象徴される通り、大人も子どもたちも皆少し笑顔や元気が出てきたなと思っています。そうしますと、ここからいよいよ立ち上がらなければならないので、今回、辛い思いをした、このピンチをチャンスに変えていく絶好の機会がきたと我々は受け止めています。単に終わってよかったなというだけではまったく意味がないことなので、制度や仕組を従来通りに戻すのがいいのか、一工夫したのをどういうふうに生かしていくのかが、今度我々、行政に与えられている課題だと思っています。

どうやらこのコロナウイルスは少し落ち着いたかなと思うとまた出てきたり、また落

ち着いたりを繰り返すようです。今、世界の医学者や製薬会社がワクチンを開発してくれていますので、おそらく人類の医学がワクチンでコロナをやっつけてくれて平和になっていくだろうと期待しております。

廣田先生は新型コロナウイルス感染症についてどのように考えておられますか。

〈意見：教育委員〉

やはりコロナウイルスは大変です。診療所の外来もピリピリしていて、ちょっと何かあったらすぐ保健所に相談して診察をしています。幸い、虎姫の診療所ではまだ感染者は出ていませんが、もし感染者が出たら新聞に掲載され、おそらく多くの方が診療所に来なくなると思います。（診療所としては）大きなピンチになってしまいます。

私の診療所では必ずタイマーを付けて定期的に換気していますし、毎日、朝と夜に机や椅子、スリッパもすべて消毒しています。何とか今のところうまくいっています。

あと、インフルエンザワクチンについてですが、全国のワクチンの数としてはちょっと足りないかなと思います。私たちがもらっているワクチンの数は知れていますので、ある程度頑張っているのですが、去年のように予防接種が出来ない状態です。今年は65歳以上の人は無料なので、電話での問い合わせが殺到しています。

1か月前から予約が入りますので、いわゆる密にならないように振り分けるなど、要望通り予防接種ができるように職員で頑張っているところです。

〈質問：教育長〉

ちょっとそれで聞きたいのですが、私たちが学校で勤めたりしているとき、インフルエンザの予防接種は学校でやっていた時代がありました。2回あったと思うのですが、今年は1回だけです。

〈意見：教育委員〉

今年はワクチンを節約するために子どもも接種回数は1回になっています。本来子どもの予防接種は2回で、2回目は増強する目的で打ちますが、1回でも効果は十分です。

〈意見：教育委員〉

去年の学校訪問で各クラスを訪問させていただいた中の一つに、コンピューターを使って授業をしておられる先生がおられました。5分しか見ていませぬのでその後どうなったかわからないのですが、私が見ている限りでは先ほどちょっとお話がありました、「知る」「あることを知るためにどうしたらいいか」「どのようにコンピューターを使ったらいいか」というような5分間の授業でした。

そこで止まってしまっただけではICT教育の値打ちがないので、知ったことをどう生かしていくかが大事だと思います。

これからも各学校でICT教育に取り組んでいくと思いますが、教育委員会の観点としては、「知りえたことをどう生かしていくか」というところまで考えていただけるとあ

りがたいです。

先ほどの中村委員の話にもありました、坂口先生のこの間の講演では同じようなことを仰っていたと思います。私は新聞記事でしか見ていないのですが、今の世の中では「知ること」は簡単にできるようになりましたが、「知ること」が目的ではなく、あることを苦労して長い時間かかっても、一つの答えを努力して見つけ出していく、それが大事だということを仰っていました。

そういう意味では色々な機器が発達してきましたので、簡単に事実を知るということはできますが、知った後にどうしていくかということから検討していく必要があると思います。

〈意見：教育委員〉

私は6月か7月から登校する子どもたちを送って行く、スクールガードを週に2、3回やっています。送る子どもの人数はだいたい16人くらいなのですが、全員が揃う日はありません。子どもによってはたった2キロほどのところを保護者が車で送ることが当たり前になっていることがあります。

多様性の一つの例としてはこういうことなのだろうと思います。それぞれの家庭状況も違うし、私たちが当たり前とっていたことが今の保護者では違うことがあります。「こんなものだろう」と子どもも知らない顔をして時々歩いて登校して来るという状況で、今の先生は大変だなと思いました。

また、私は寺の住職をしているのですが、法事が非常に簡略化されています。田舎のことですから親類縁者では20、30人来るのが普通だったところが、本当に5、6人しか来られません。

このコロナ禍で文化そのものが変わるのだろうなと思います。学校教育でも、この社会でも、ポストコロナに何を残すか。もう一度何を復活させるかとなったときに、もちろんICTやそういうものを使うということは絶対必要ですし、やっていかなければならないと思います。

我々の世代は少し軟弱なところがあって、「これは大事だ」ということをはっきり言わないところがあります。明治時代とか私の父くらいのときには、「こういうものなのだ」「村のつきあいはしなければならない」と頑として言われて、「ああそうかな」と思って通じてきたものが、今回のコロナを機にいわゆる伝統文化や社会生活の中でも、大きく変わってきているところがあります。

こういうときに学校教育の中でも、何をもう一度残すのかといったときに、やはり人格という言葉や、大事なものを選択する・見つけるということが挙がるのかなと思います。やはり人と人が繋がって、今日のようにこうやっている色々な方とお話をするのが、教育や社会、政治もそうでしょうけど大事なのではないかなと感じています。

〈意見：市長〉

先ほど、西橋委員も仰いましたが、ITやICT教育という言葉が出てきましたが、私か

ら言わせていただければ、それはあくまでも手段や道具だと思います。これは菅首相もデジタル庁を作り、社会改革をして経済成長に結びつける意気込みでおられます。

しかし、教育の分野に絞ってみれば、どんなにコンピューターやIT化が進んだとしても、やはり教育というものは、将来、子どもたちが責任のある大人へ成長していくように、我々大人がその役割を果たしていくことに尽きると思います。

少し話は変わりますが、この前、私は10年振りに長浜へ帰ってきた女性とお話する機会がありました。長浜市出身の方で縁があってカナダで10年間暮らしておられたそうです。なぜ長浜へ帰ってきたのかお聞きしたところ、やはり生まれて育った故郷は、親や兄弟がいて、思い出のあるこの長浜の故郷に想いを寄せて帰ってきたとのことでした。人口減少や少子化が長浜市でも進む中、私としては大変嬉しい思いで受け止めさせていただきました。

おそらくこの方は家族環境や友達に恵まれたのだらうと思います。10年で家庭をもって子どもも出来てしまえばそのままいってしまうのだらうと思うところに、気持ちを動かす故郷や家族、友達がいたということに思いを寄せますと、やはり故郷の台座とか、そこに宿っている伝統文化についてしっかり我々も継承して次の世代に受け継いでいく大きな努力をしていかなければならないと思った事例がございましたので、報告させていただきます。

〈終わりに：教育長〉

皆様、ご意見をありがとうございました。まだコロナに関しては現在進行形ですので、終了した時点での振り返りはもちろんできませんが、現時点での私の率直な感想は、私自身を含め、案外、大人はもろかったなという印象を持ちました。あふれる情報に振り回され、その中で右往左往したのは子どもたちよりもむしろ大人の方ではなかったのかという気がします。

例を挙げると9月入学が非常に話題になったことがありましたが、今、9月入学なんてこのニュースサイトを見ても出てきません。問題の本質から外れた狂気的な状況の中で、長期的な対応などの方法を考えていくと、非常に誤りをしでかすことが多いというのは過去の歴史から見てもわかります。こういう点は非常に大事なのではという気がします。現時点で私が思うのは、もうこれは日常にしていくしかないと思います。

昔は体調の変化を親子で話し合うことは当たり前でした。朝の体調、熱の有り無し、他所の子にうつさないようにマスクをする、具合が悪かったら帰ってくる。そういう日常が当たり前だったにも関わらず、学校の先生が健康観察カードで見ることはおかしいと思います。

だから、昔に戻せばいいというわけではありませんが、自己責任で自分ができることをする、自分が周りを考えてやらなければならないことは確実にやる。これらを原則に考えて、このコロナでもインフルエンザでも感染症に対する備えをしていくしかないのだらうなと思います。

例えば、飲食を伴う会議で感染することがあります。少し具合が悪いなと思ったら普

通はそういった会議に行かないですよ。それでも、会議へ行くことが当然の権利、私の権利はどうなるのかという社会になってきたので、という気もしないでもないです。

今度の校長会に直々にいって私が話そうと思うのは、学校は、今だからこうではなくて、この状態だからどうやってやるのかということに目先を変えていって欲しいということです。子どもたちが、しょんぼりと下を向くのも向かないのもあなた方にかかっているということ、現場の先生方をお願いしていただきたいということを強く伝えたいと思っています。

だから、先ほど皆様から、変わってはいけないもの、失ってはいけないもの、不易ということも言っていただきましたけれども、最近、私非常に自分で興味を覚えているのは英語教育です。最初に興味を覚えたきっかけは、小学校から英語を勉強すると習得は速いのかということです。まだ皆様にお話ができるような自分の確固たる意見はありませんが、ある本を読んでいましたらこんなことが書いてありました。幼児期に海外で過ごす子どもが海外の現地の学校へ入学すれば、その母国語を習得します。そして、中学や高校などで日本に帰ってくる、いわゆる帰国子女となると、彼ら、彼女らは必ず「壁」にぶつかるそうです。

何故か。英語で表現ができたとしても、日本語で表現ができない。家で日本語を使っても、日常生活程度の日本語しか習得してない子どもにとって、外国語の習得は非常に厳しいと書いてありました。その証拠に洋画があります。出てくる字幕スーパーは、アメリカ人の俳優が喋っている英語をきちんと規則どおり翻訳したような訳になっていません。日本語を修得し、多様な表現が出来るからこそ、ああいう翻訳が可能となります。

こういうことを考えると、タブレットはどうでしょうか。ICT教育の肝であり、学校にも家庭にも入ってきています。多様な表現や多様な日本語を習熟させるようなことが、果たしてコンピューターで可能なのでしょうか。読み聞かせもタブレットのボタンを押したら自動音声でできるかもしれませんが、それは違う気がします。やはり側にいるお母さんのぬくもりと語り掛け、子どもがだんだん寝てきたら語るスピードをだんだん落としていくなど、そういう世界が必要なのだらうと思います。

これらをどうやって具体的に今後、残していくのか、教育の部分として明確にしていくなかというのは、私たちに与えられた仕事だと思い考えているところでございます。

まとめにはなりません、また皆さんの方で良いお知恵などありましたらぜひ出していただきたいと思っています。

5 その他

〈事務局からの連絡〉

本日お話をいただきましたお言葉をまた要点録として作成をさせていただきます。

また、本日の会議の中で廣田先生の方から教育大綱の基本目標4に「自然」というキーワードを入れた方がというお話がありました。事務局として一定の調整をする中で、そのキーワードを何かに役立てることを少し考えさせていただきたいと思っていますので、

教育大綱としてはこの最終案を仕上がりということをお願いします。

15 時 00 分 閉会